

公立千歳科学技術大学紀要 創立20周年記念号

「創立20周年および公立千歳科学技術大学開学記念誌」の発行に当たって

公立千歳科学技術大学
学長 川瀬 正明

千歳科学技術大学が千歳市を母体とする公設民営の大学として開学したのは平成10(1998)年4月であり、さらに21年後の平成31(2019)年4月に設置団体が学校法人から公立大学法人に変わって、公立千歳科学技術大学として再出発した。

ここに、私立大学としての千歳科学技術大学から公立千歳科学技術大学発足に至る約20年間の記録を大学紀要記念号としてまとめることとした。

当初の大学設立の目的や建学の精神の詳細等、創立当時の状況は「創立10周年記念誌」にまとめられており、大学史の編纂において、本記念誌はその続編と考えている。そのため、本記念誌は10周年経過後から公立大学開学の令和元(2019)年度までを基本とするが、学部学科の改編等は実行に移される以前の状況や検討経緯を元を実施されていることから、期間を必ずしも限定せずに記述している。また、基本的なデータについては創立当初から通して記載した。

なお、「創立10周年記念誌」は冊子体であったため、デジタルデータとして本記念誌の資料編に付すこととした。

この記録が公立千歳科学技術大学の将来に向けて、さらなる発展への一助になれば幸いである。

20周年ならびに公立大学発足にあたって



千歳市長
山口 幸太郎

千歳科学技術大学は我が国における学術・技術の振興と国際化の推進に貢献するとともに、社会の発展と文化の向上に寄与することを大学設立の主旨として、公設民営方式によって平成十年四月に開学致しました。

開学以来、約三千四百名の卒業生を輩出し、巣立った若者がここで学んだ知識と技術を活かしながら全国で活躍しており、また、卒業生などの起業により五社のベンチャー企業が誕生しています。さらに、公開講座や理科実験講座の開催、小中学校における学習支援などの地域貢献も担っており、本市のまちづくりに不可欠な存在であります。

本市は、飛躍的な発展を遂げる新千歳空港をはじめ、様々な産業が集積する工業団地や宿泊可能なコンベンション施設を有するなどまちの都市力を活かしながら発展を続けておりますが、さらなる高みを目指すため、まちづくりに必要不可欠な大学の公立化について決断し、事業を進めて参りました。

公立化にあたり、公立大学法人公立千歳科学技術大学の中期目標として、「人材育成」と「地域貢献」という大きな二つの柱を掲げました。

今日時代の潮流として多様性の時代、いわゆるダイバーシティの時代を迎えており、そのような時代において、本市の独自性や特性を生かしながら、まちづくりにおける様々な課題を克服するためには、市民協働の推進が必要であります。

その中で、大学は、将来を担う優れた技術者を育成し、地域社会ひいては国際社会の発展に貢献するグローバルな視野を持った人材を育成する・ヒューマンキャピタルとともに、地域の知の拠点として地域と共生し、本市のまちづくりの活力となる地域貢献活動・ソーシャルキャピタルを担う高等教育機関と位置付けております。

本学が、全国から有為な若者を惹きつける「魅力ある大学」となり、そこで学ぶ学生が、学生生活の中で地域に触れ、地域と関わり合い、地域で活躍する取組を通して、地域力を高めること、さらには、ふるさと千歳全体の活力を高めることに大いに期待しております。

結びに、公立化にご尽力いただきました有識者会議及び評価委員会委員の皆様、市議会議員他千歳科学技術大学の関係者などの皆様に心から感謝申し上げます。

(2019.6.8 公立大学法人公立千歳科学技術大学設立及び開学20周年記念式典式辞から)

20周年ならびに公立大学発足にあたって



公立大学法人
公立千歳科学技術大学
理事長・学長 川瀬 正明

本学の前身である千歳科学技術大学は平成10年4月に千歳市を母体とする公設民営の大学として設立されました。時代の最先端技術として光サイエンスを特徴とした光科学部2学科の構成で発足し、その後の社会環境の変化や科学技術の進展とともに対象とするフィールドを徐々に広げ、平成20年には3学科構成とし、平成27、28年に現在の理工学部 応用化学生物学科、電子光工学科、情報システム工学科の体制となっています。

この20年あまりの間に、大学を取り巻く環境は大きく変化し、思い切った大学改革が必要との判断にいたり、平成28年12月に「公立大学法人化の検討」に関する要望書を千歳市に提出致しました。

その後、有識者会議における検討を経て、平成29年10月には市長から公立大学法人設立を是とする表明がなされました。さらに千歳市議会特別調査委員会による調査検討と評価委員会の設置を経て、法人設立と公立千歳科学技術大学の開学に至りました。

あらためまして、ご尽力いただきました関係の皆様ならびに市民の皆様のご理解に深く感謝申し上げます。

大学はこの春で開学21年を迎えましたが、公立化にあたって、建学時の精神を引き継ぎつつ、新たに大学の理念を定めました。その骨子は「理工学分野をはじめとする幅広い教育と研究を通して、高い知性とすぐれた人格を有する人材の育成」と「地域との共生を通して、社会とともに発展する大学」であります。具体的な施策として「スマートネイチャーシティちとせ構想」を提案し、その推進と「知の拠点」、「人材の拠点」、「地域・社会貢献の拠点」となることを目指しています。

教育改革につきましては本学のどの分野で学んでも、数理情報系に強い、これからの社会で必要とされ、活躍が期待できる人材の育成に注力して参ります。

新体制においては、魅力あふれる大学の実現に向けて教職員一体となって大学改革を推進し、地域社会はもとより、広く国際社会の発展に寄与する体制構築を進めて参りますので、今後一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

結びにあたり、公立大学法人設立にご支援いただいた皆様、また21年間の千歳科学技術大学の活動に対し、個別には上げきれない様々な形でご支援をいただいた皆様、社会で活躍し、大学の名を高めてくれた卒業生みなさんに衷心より感謝申し上げます。

(2019.6.8 公立大学法人公立千歳科学技術大学設立及び開学20周年記念式典式辞から)

祝 辞



公立千歳科学技術大学顧問

伊澤 達夫

(千歳科学技術大学第3代理事長)

本学の設立準備財団の理事、大学設立後は引き続き理事に就任し2007年まで務めました。更に2013年から学校法人解散まで理事長を務めており、長期にわたって本学経営の責任ある立場におりました。そのような人間にとって、公立大学法人化並びに開学20周年を迎えたことに喜びと深い感慨を覚えます。

公立大学法人化にご理解を頂きご決断頂いた山口市長、市議会の皆様に深く感謝するとともに、実務作業に当たられた市職員の皆様並びに本学教職員、並に公立大学法人化にご支援いただいた関係各位に深く感謝する次第であります。

ご承知のように大学の運営には多くの資金が必要となります。日本の主要理工系大学は、学生一人当たり300～500万円のお金をかけております。私立大学でこの程度の経費をかけているのはごく一部の有名私立大学だけで、特に中小私立大学では授業料が主要収入で定員割れも出ることが多く苦しい経営を続けております。本学は、公立大学法人化によって経営は幾分安定しますが、一流の大学になるためには、まだまだ多くの壁があります。特に、日本が弱いとされ、本学が力を入れている情報系教育を強化するためには多くの課題を解決しなければなりません。

公立大学法人化は本学発展の第一歩で、大学が発展し地元の千歳市の発展にも貢献できるようになるためには、更なる経営改革が必要になると思います。既に国立大学法人の連携統合が進み始めておりますが、規模の小さな公立大学法人こそ、連携・統合は喫緊の課題だと思っております。

新しい体制で動き始めたばかりですが、環境の変化に対応できる強靱な体制に変化させるべく現経営陣が努力されることを期待しております。赤字経営を続けてきた者が願ひするのも変ですが、川瀬理事長のリーダーシップの下、大学が更なる改革を進め、ますます発展することをお祈りしております。